

# 第10回 日本小児在宅医療支援研究会 プログラム・抄録集

## テーマ

“重症児が地域で生活するために  
医療を支える、生活を支える、つなぐ”

会期 : 2021年9月5日(日)  
会場 : 名古屋国際会議場会議室 及びオンライン配信  
会長 : 水野 美穂子  
(社会医療法人宏潤会大同病院 大同こども総合医療センター センター長)  
副会長 : 三浦 清邦  
(愛知県医療療育総合センター 副院長)

## 会長挨拶

第10回日本小児在宅医療支援研究会  
会長 水野 美穂子



このたび 第10回日本小児在宅医療支援研究会をお世話させていただくことになりました、社会医療法人宏潤会大同病院 大同こども総合医療センターの水野美穂子です。

本来は昨年行われるはずでありましたが、新型コロナウイルスの流行によりやむなく中止とさせていただき、今年2年越しの開催にこぎつけた次第です。今年も流行状況によってどのような開催形態がよいか大変苦慮致しました。

新型コロナウイルスの流行は「人のつながり」を困難にするものでした。医療的ケアを必要とする子どもたちを支えるためには多くの職種の連携が欠かせられません。文字通り「顔の見える関係」をこれまで築いてきましたが、それが今断ち切れ、サポート側だけでなく子どもたちや保護者の方々も心もとない思いの中にあるのではないのでしょうか。

本研究会は感染対策に十分配慮した上で、可能な限り対面で多くの方々と情報を交換したいと思っています。

愛知・三重・岐阜の3県はこれまで愛知県医療療育総合センター（旧 愛知県コロニー）の三浦清邦先生、三重大学の岩本彰太郎先生たちが中心となって小児在宅医療のための人材育成やネットワークの構築がおこなわれてきました。本研究会の開催により、東海地区における小児在宅医療への取り組みが全国に向けて発信されることを期待します。

大同こども総合医療センターは2003年頃から在宅療養を必要とする子どもたちのサポートを行ってきました。私たちが在宅で人工呼吸器管理を行った最初の子は超未熟児で生まれ、様々な合併症により人工呼吸器管理が必要だったSくん。多くのことを学ばせてもらいました。この頃の酸素濃縮器はドラム缶くらいの大きさで、重くてお部屋の床が抜けそうなので玄関に置いてありました。この子は高次医療機関のNICUから大同病院へ転院し、私たちが在宅療養のすべてをサポートしました。以後 大同病院はこのスタイルを継続しています。在宅移行後の訪問診療、緊急時の入院治療、ケア方法の見直しなど当施設が中心となって多職種による地域のネットワークを構築し、医療だけでなく生活も支えるきめ細かなサポート体制を整えています。今でこそ「中間施設」「コーディネーター機能」などが小児の在宅医療に不可欠であると言われていますが、私たちは必要に迫られてそのような機能を持って活動してきました。これまで100名以上の子ども達の在宅移行支援に関わってきています。2022年秋には重症心身障害児施設「にじいろのいえ」を開設する予定です。知多半島の小児在宅医療の拠点として、医療的ケア児の様々なニーズ、特に短期入所などを積極的に受け入れる予定です。

私たちがこのような活動ができているのは大同こども総合医療センターの同僚の医師たち、看護部を始めとした院内の様々な職種の人たち、地域で共に活動する多くの仲間、そして本研究会の副会長としても支えてくださった三浦清邦先生のお力添えによると思っています。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 【略 歴】

昭和53年 長野県立飯田高等学校卒業  
昭和59年 岐阜大学医学部卒業  
同年 名古屋市立大学 小児科 臨床研修医  
昭和60年 蒲郡市民病院 小児科  
昭和62年 名古屋市立大学 小児科 臨床研究医  
平成2年 大同病院 小児科 以後現在に至る  
現在 大同病院 副院長 大同こども総合医療センター長

# 第10回日本小児在宅医療支援研究会

■ 開催日時：2021年9月5日（日）9：00～17：00

■ 開催場所：名古屋国際会議場

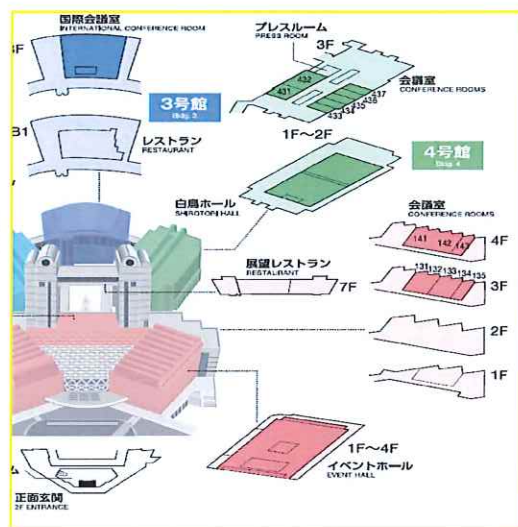
〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号（TEL052-683-7711）

■ 会議室：141+142（第1会場）、431+432（第2会場）、133+134（第3会場）、  
131+132（展示場）、135（ハンズオンセミナー）

## 《会場周辺地図》



## 《フロア地図》



《交通アクセス》 西高蔵駅・日比野駅下車 徒歩5分

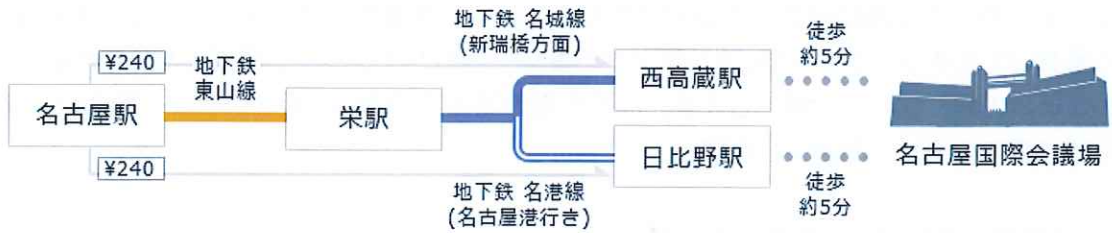
## 名古屋駅から、金山経由で

「名古屋駅」から名鉄線・JR東海道本線・JR中央線「金山駅」で乗り換え、地下鉄名城線「西高蔵駅」(2版出口)もしくは地下鉄名港線「日比野駅」(1番出口)下車、駅から徒歩5分。



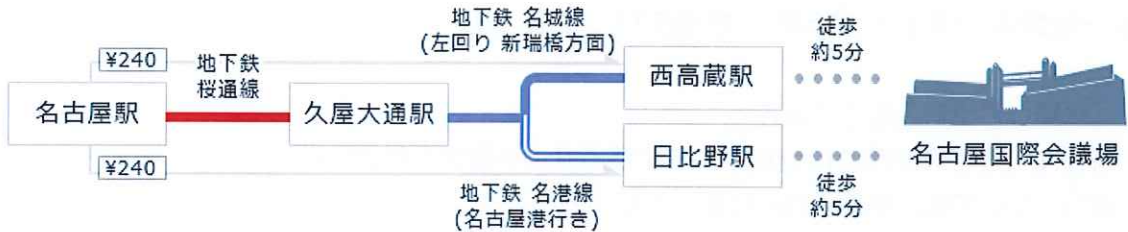
### 名古屋駅から、栄経由で

「名古屋駅」から地下鉄東山線「栄駅」で乗り換え、地下鉄名城線「西高蔵駅」(2番出口)もしくは地下鉄名港線「日比野駅」(1番出口)下車、駅から徒歩5分。



### 名古屋駅から、久屋大通経由で

「名古屋駅」から地下鉄桜通線「久屋大通駅」で乗り換え、地下鉄名城線「西高蔵駅」(2番出口)もしくは地下鉄名港線「日比野駅」(1番出口)下車、駅から徒歩5分。



### 最寄駅からのアクセス



- 参加費 医師 5,000円                      その他 3,000円
- 抄録集 1冊 500円 (会員の方には無料で配布します)
- 単位 ◎日本小児科学会認定単位

新専門医制度 iii 小児科領域講習 1単位 13:00~14:00  
 教育講演1「小児死亡事例から学ぶ -防ぎ得た死亡-」  
 教育講演2「気管軟化症 呼吸管理の知識」  
 現地参加者のみ単位付与します。

## 演者・座長へのお知らせとお願い

今回も多くの方々が演題発表にご協力いただき、心から感謝申し上げます。一般演題40題の応募をいただきました。一部、オンデマンド配信を含むハイブリッド開催となりますので、予めご了承の程、宜しくお願いします。なお会場の関係で時間的に厳しい状況ですので、発表時間の厳守を宜しくお願いします。

- 基調講演（第1会場）：発表30分、質疑なし
- 教育講演（第1・2会場）：発表1時間、質疑（時間の許す限り）
- シンポジウム（第1会場）：各発表20分～25分、総合討論10分
- 緊急提言（第1会場）：発表20分
- ランチョンセミナー（第1・2会場）：発表50分
- 一般講演：（第2・3・展示場）：各発表7分、質疑3分

### 1. 来場して講演発表される方へ

(1)演者は発表開始時刻の10分前までに次演者席にお着きください。  
進行については、座長の指示に従ってください。

#### (2)発表データ受付について

名古屋国際会議場 第1会場（141+142）前で受けつけます。朝1番の講演の方は30分前、他発表者は発表開始60分前までにはPCの試写及びデータ取り込みを済ませてください。なお遅れる場合には、必ず080-7154-2376（社会医療法人宏潤会大同病院 近藤）にご連絡をお願いします。

#### (3)発表内容の録音について

今回はハイブリッド開催となっています。発表内容は録音させていただき後日オンデマンドで視聴する形式とします。よろしく御了解願います。

PCデータ受付時間 8:00～11:00

#### (4)データについて

<Windows PC>USBメモリ、CD-ROM、ノートPCの持ち込みによる受付が可能です。

##### ■ USBメモリ、CD-ROMによる受付について

- ・発表用のPCは、Windows10を使用しております。
- ・アプリケーションは、Microsoft PowerPoint 2016をご利用します。
- ・Windows標準フォントを使用してください。
- ・動画データはPowerPointデータと同じフォルダに保存してください。万が一、会場のPCで動画が正常に動作しない場合を想定し、念のためご自身のPCもご持参ください。

## <Macintosh PC>

ノートPCをご持参ください。USBメモリ、CD-ROMによる受付はできません。

※こちらに関してのお問い合わせは下記へお願いします。

(お問い合わせ先：社会医療法人宏潤会 大同病院 近藤 TEL：052-611-6261)

### (5)発表方法について

演壇上に配置しておりますプレゼンリモコンにて、自身で操作してください。

発表者ツールは使用できません。

## 2. 座長の方へ

開始時刻の10分前までに、次座長席にお着きください。

進行は時間厳守でお願いします。

## 3. Web参加について

(1)第1会場（141+142）のみリアルタイムで参加頂けます。(ハイブリッド開催)

当日参加URLは、事前登録時のメールアドレスに連絡します。

その他の会場については後日オンデマンドで視聴可能です。

(2)ハンズオンセミナーについて

■ ハンズオンセミナー1 大同病院企画 【現地参加・ハイブリッド・オンデマンド】

「こどもの成長に必要な食事づくり」

津田 直子（管理栄養士）

■ ハンズオンセミナー2

【Zoom開催】

「みんな何困っている？」

紅谷 浩之（オレンジケアホームクリニック）

市橋 亮一（総合在宅医療クリニック）

<Zoom招待URL> <ZoomQR>

参加申し込み者に連絡します。

(お願い)

発表されたスライドは、勇美記念財団への報告書に使用させていただきます。万が一プライバシーの問題でそのまま発表スライドを利用できない場合は、「資料スライド」として別にご準備いただき、ご提出をお願い致します。何卒ご了承承宜しく申し上げます。

第10回日本小児在宅医療支援研究会

会長 水野 美穂子

副会長 三浦 清邦

# 日程表

2021年9月5日(日)

	第1会場 (会議室141+142)	第2会場 (会議室431+432)	第3会場 (会議室133+134)	第4会場 (会議室135)
9:00	9:00~9:10 開会式			
	9:10~9:40 基調講演 〔東海三県における小児在宅医療への取り組み〕 講師:三浦 清邦(愛知県医療教育総合センター)			
10:00	9:50~11:20 シンポジウム1 〔地域に出て地域を支える〕	9:50~10:50 一般演題 〔家族支援1〕	9:50~10:50 一般演題 〔学校・教育〕	
11:00		10:50~11:50 一般演題 〔家族支援2〕	10:50~11:50 一般演題 〔多職種・病診連携1〕	
	11:30~11:50 緊急提言			
12:00	12:00~12:50 ランチョンセミナー 〔医ケア児者の食事・栄養支援 -子どもたちとご家族の 豊かな生活を支えるために〕 講師:浅野 一恵(つばさ静岡)	12:00~12:50 ランチョンセミナー 人工呼吸器 〔医療的ケア児の呼吸管理 呼吸回路を中心として〕 講師:戸谷 剛(あおぞら診療所豊田)	11:30~11:50 緊急提言 〔経腸コネクタ変更に伴う 重症心身障害・医ケア児者分野の課題〕 講師:浅野 一恵(つばさ静岡)	
13:00	13:00~14:00 教育講演1 小児死亡事例から学ぶ -防ぎ得た死亡- 講師:沼口 敦 (名古屋大学医学部附属病院)	13:00~14:00 教育講演2 気管軟化症 呼吸管理の知識 講師:長谷川 久弥 (東京女子医科大学総合医療センター)		13:00~14:00 〔現地・ハイブリッド・オンデマンド〕 ハンズオンセミナー1 ~実習しましょう~ 〔子どもの成長に必要な 食事づくり〕 講師:津田 直子(大同病院)
14:00				
15:00	14:10~15:10 シンポジウム2 〔医療的ケア児に関わる令和3年度 障害福祉サービス等報酬改定〕	14:10~15:10 一般演題 〔災害・コロナ〕	14:10~15:10 一般演題 〔多職種・病診連携2〕	14:10~15:10 [Zoom] ハンズオンセミナー2 成人在宅医向け みんな何困っている?
16:00	15:20~16:50 シンポジウム3 〔災害-平時からの準備〕		15:20~16:00 一般演題 〔医療的ケアなど〕	
17:00	16:50~17:00 閉会式			



# プログラム

- 開催日時：2021年9月5日（日）9：00～17：00
- 開催場所：名古屋国際会議場会議室 及びオンライン配信
- テーマ：～重症児が地域で生活するために医療を支える、生活を支える、つなぐ～
- 会長：水野 美穂子（社会医療法人宏潤会大同病院 大同こども総合医療センター センター長）
- 副会長：三浦 清邦（愛知県医療療育総合センター中央病院 副院長）

## 【第1会場 141+142】

- 9:00- 開会式：水野 美穂子（大同病院）
- 9:10-9:40 基調講演 座長：田村 正徳（埼玉医科大学総合医療センター）  
「東海三県における小児在宅医療への取り組み」  
三浦 清邦（愛知県医療療育総合センター）
- 9:50-11:20 シンポジウム1 座長：夏目 淳（名古屋大学大学院医学系研究科）  
岩本 彰太郎（三重大学病院医学部附属病院）  
「地域に出て地域を支える」  
中川 義文（桑名市社会福祉協議会）  
戸枝 陽基（社会福祉法人むそう）  
北川 雄史（いぶき福祉会）
- 11:30-11:50 緊急提言 座長：野田 正治（愛知県医師会）  
「経腸コネクタ変更に伴う重症心身障害・医ケア児者分野の課題」  
浅野 一恵（つばさ静岡）
- 12:00-12:50 ランチョンセミナー 座長：野田 正治（愛知県医師会）  
「医ケア児者の食事・栄養支援-こどもたちとご家族の豊かな生活を支えるために」  
浅野 一恵（つばさ静岡）  
協賛企業：株式会社 大塚製薬工場
- 13:00-14:00 教育講演1 「～小児在宅医療における危機管理～」  
座長：夏目 淳（名古屋大学大学院医学系研究科）  
「小児死亡事例から学ぶ -防ぎ得た死亡-」  
沼口 敦（名古屋大学医学部附属病院）

- 14:10-15:10 シンポジウム2 座長：三浦 清邦（愛知県医療療育総合センター）  
 「医療的ケア児に関わる令和3年度障害福祉サービス等報酬改定」  
 田村 正徳（埼玉医科大学総合医療センター）  
 北澤 直美（厚生労働省）  
 指定発言：前田 浩利（はるたか会）
- 15:20-16:50 シンポジウム3 座長：中村 知夫（国立成育医療研究センター）  
 河俣 あゆみ（三重大学医学部附属病院）  
 「災害-平時からの準備」  
 笠井 健（北良株式会社）  
 加賀田 真寿美（佐久医療センター）  
 土島 智幸（稲生会）
- 【第2会場 431+432】
- 9:50-10:50 家族支援1 座長：加藤 衣津美（大同病院）  
 田村 泉（大同病院）  
 「演題番号1-6」
- 10:50-11:50 家族支援2 座長：糸見 和也（あいち小児保健医療総合センター）  
 平光 美子（あいち小児保健医療総合センター）  
 「演題番号7-12」
- 12:00-12:50 人工呼吸器 座長：丸山 幸一（愛知県医療療育総合センター）  
 「医療的ケア児の呼吸管理 呼吸回路を中心として」  
 戸谷 剛（あおぞら診療所墨田）  
 協賛企業：チェスト株式会社
- 13:00-14:00 教育講演2 「～小児在宅医療における危機管理～」  
 座長：森脇 浩一（埼玉医科大学総合医療センター）  
 「気管支軟化症 呼吸管理の知識」  
 長谷川 久弥（東京女子医科大学東医療センター）
- 14:10-15:10 災害・コロナ 座長：浅井 隼人（小児在宅クリニックみちくさ）  
 大石 明宣（信愛医療療育センター）  
 「演題番号13-18」

【第3会場 133+134】

9:50-10:50 家族支援1

座長：三宅 能成（一宮市立市民病院）

岡田 まり（訪問看護ステーションほたるいせ）

〔演題番号19-24〕

10:50-11:50 多職種・病診連携1

座長：大谷 勉（大谷小児科）

杉山 由加里（大同病院）

〔演題番号25-30〕

14:10-15:10 多職種・病診連携2

座長：麻生 幸三郎（信愛医療療育センター）

丸山 幸一（愛知県医療療育総合センター）

〔演題番号31-36〕

15:20-16:00 医療的ケアなど

座長：近藤 久（近藤小児科医院）

〔演題番号37-40〕

【135】

13:00-14:00 ハンズオンセミナー1 大同病院企画【現地・ハイブリッド・オンデマンド】

「こどもの成長に必要な食事づくり」

津田 直子（管理栄養士）

14:10-15:10 ハンズオンセミナー2【ZOOM開催】

「みんな何困っている？」

紅谷 浩之（オレンジケアホームクリニック）

市橋 亮一（総合在宅医療クリニック）

## 【一般演題プログラム】

<b>【第2会場】 家族支援1</b>	
	9:50~10:50
	座長 加藤衣津美 (大同病院) 田村 泉 (大同子ども総合医療センター)
001	重度障害の方の地域生活を支えるショートステイとグループホームが不足している課題について 藤本 真二 (NPO法人ねがいのいえ)
002	医療的ケアが複数ある子どもの母子分離が進まない 西山 亜紀 (訪問看護ステーション豆大ふく)
003	基幹病院における医療的ケア児の就園・就学支援 末藤 美貴 (三重大学医学部附属病院)
004	生活を支える つなぐ ～相談支援の立場から～ 母の思いとお二人の様子を関わる人から聞き集め、つなぐを考える 中原 千 (相談支援事業所ひととま)
005	レスパイト入院を通した母と子への支援 “子どもが伸びる”ことが母の力を引き出す 中川 幹雄 (愛知県医療療育総合センター)
006	医療的ケアの必要な児の母の出産時の支援について 田村 泉 (大同病院又は大同子ども総合医療センター)
<b>【第2会場】 家族支援2</b>	
	10:50~11:50
	座長 糸見 和也 (あいち小児保健医療総合センター) 平光 美子 (あいち小児保健医療総合センター)
007	医療的ケア児への食事指導～初めての離乳食～ 津田 直子 (だいどうクリニック在宅診療部)
008	愛知県医療療育総合センター地域支援課の役割と活動報告 徳永三津子 (愛知県医療療育総合センター)
009	令和元年度 愛知県医療的ケア児者実態調査 長谷川桜子 (愛知県医療療育総合センター)
010	心室細動により心肺停止後に蘇生し在宅移行支援を行なった1例 磯部 弘治 (大同子ども総合医療センター)
011	名古屋市医療的ケア児支援情報発信ツールについて 神田のぞみ (名古屋市子ども青少年局子育て支援部子ども福祉課)
012	終末期の迎え方 ～「たすかってしまった生命」の一症例を通して～ 山岡侑佳利 (訪問看護ステーションありす)

**【第2会場】 災害・コロナ・セーフティネット**

14:10~15:10

座長 浅井 隼人 (小児在宅クリニックみちくさ)  
大石 明宣 (信愛医療療育センター)

- 013 地域で育つこと、日々のお出かけが災害対策になる  
～小児専門訪問看護ステーションの小さな取り組み～  
松丸 実奈 (NPO法人にこり)
- 014 災害時対策を踏まえた超重心多職種カンファレンスについての考察  
木暮 望恵 (済生会川口総合病院)
- 015 在宅医療ケア児の災害対策 - 電子カルテ地域診療情報連携システムを用いた安否確認システムと  
停電時電源センターの運用について -  
望月 成隆 (大阪母子医療センター)
- 016 災害時の人工呼吸器使用を想定した家庭用蓄電池の実験と報告  
～在宅用人工呼吸器の実際の使用電力量はかなり少ない～  
輪ノ内 新 (リハビリ訪問看護ステーション まえあし)
- 017 短期入所で受入れた在宅重症者のコロナ感染濃厚接触者の1例とその経過  
船戸 正久 (大阪発達総合療育センター小児科)
- 018 緊急時即応医療型短期入所 (セーフティネット短期入所) を全国で整備して下さい  
浅井 隼人 (小児在宅クリニックみちくさ)

**【第3会場】 学校・教育**

9:50~10:50

座長 三宅 能成 (一宮市立市民病院)  
岡田 まり (訪問看護ステーションほたるいせ)

- 019 普通学校における医療的ケア児を包摂した安全の確保と課題  
～主に小学校における災害を中心とした安全教育を含む検討に基づいて～  
山本 智子 (国立音楽大学音楽学部)
- 020 横浜市立学校における医療的ケア支援事業 ～第1報 取組の概要～  
藤原 啓子 (横浜市教育委員会事務局)
- 021 横浜市立学校における医療的ケア支援事業 ～第2報 自立支援の取組～  
藤原 啓子 (横浜市教育委員会事務局)
- 022 子供たちの学びや成長を保障できる地域、社会づくりのために  
村尾 恭子 (瀬戸市児童発達支援センターのぞみ学園)
- 023 愛知県立港特別支援学校の取り組みについて  
足立ルミ子 (愛知県立港特別支援学校)
- 024 医療的ケア児の受け入れのための出張研修の効果と課題  
高橋 泉 (駒沢女子大学看護学部)

**【第3会場】多職種・病診連携1**

10:50~11:50

座長 大谷 勉 (大谷小児科)  
杉山由加里 (大同病院)

- 025 これからの薬局機能と小児在宅医療  
～かかりつけ薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の役割～  
串田 一樹 (昭和薬科大学)
- 026 こども専門の訪問看護ステーションの開設から1年を迎えての現状と課題  
山内 康史 (こども訪問看護ステーションてとめと)
- 027 小児在宅医療における在宅療養支援診療所と病院との情報共有の課題について  
岡田 直己 (新神戸おかだクリニック)
- 028 「今後も小児科で診てほしい」の意味  
: 総合診療医による在宅・成人期移行支援の検討  
杉山由加里 (だいどうクリニック在宅診療部)
- 029 県補助事業を用いた小児在宅医療支援の成果とその後の発展  
是松 聖悟 (埼玉医科大学総合医療センター)
- 030 医療的ケアを必要とする子どもの在宅移行についての課題  
～急性期病院から地域の病院への移行時の情報共有について考察する～  
加藤衣津美 (大同病院)

**【第3会場】多職種・病診連携2**

14:10~15:10

座長 麻生幸三郎 (信愛医療療育センター)  
丸山 幸一 (愛知県医療療育総合センター)

- 031 NICU・新生児病棟における退院支援パス～運用後の評価～  
坪井 彩夏 (神奈川県立こども医療センター)
- 032 内科医でもできる地域で支える小児在宅医療  
森 亮太 (杉浦医院)
- 033 北九州市における官民多職種連携による医療的ケア児支援のためのプラットフォーム作り  
荒木 俊介 (北九州地域医療的ケア児支援協議会)
- 034 小児在宅医療の受け皿を地域において醸成するための日本小児科医会の取り組み  
大山 昇一 (埼玉県済生会川口総合病院)
- 035 連携カードの作成による病院と地域、地域と地域の情報共有のための活動  
島崎 亮司 (シティタワー診療所)
- 036 医療的ケア児等コーディネーターを担う小児在宅歯科医師としての活動報告 第1報  
松野 頌平 (医療法人メディエフ寺嶋歯科医院)

【第3会場】 医療的ケアなど		15:20~16:00
		座長 近藤 久 (近藤小児科医院)
037	重症心身障害児における唾液を促す口腔ケア方法を取り入れた実態調査	安藤 玲奈 (埼玉医科大学総合医療センター)
038	二分脊椎患者の排便管理について	中山 薫 (あいち小児保健医療総合センター)
039	重症心身障害児(者)に対する看護師の共感の程度とその関連要因	滝澤 幸子 (カルガモの家)
040	小児在宅医療におけるAI技術の利用に関する研究から見えた現状と課題	中村 知夫 (国立成育医療研究センター)